

2012年ロンドンオリンピックでサッカー日本代表チームを率いた関塚隆さんと、グローバルな展開をみせる学生プロジェクトに参加する現役学生の久保唯香さん。先輩・後輩が母校・早稲田大学への思いを語らう。

私たちにとっての母校

関塚 サッカー一筋だった十代の私にとって早稲田大学のア式蹴球部は、川淵三郎さんや釜本邦茂さんをはじめとする歴代の日本代表選手を輩出した憧れの場所でした。そのトップレベルの環境でサッカーをしたいという思いが強くなり、一年の浪人を経て入学したのが80年です。

久保 現在でも早稲田大学の学生は、我が道を行くタイプが多いと感じます。関塚さんも、在学時はサッカーの道を追求されたんですね。

関塚 サッカーにじっくり向き合えた4年間だったと実感していますが、文武両道の理念から



●ロンドン五輪で指揮を執る関塚監督 写真 北村大樹/アフロスポーツ

も鍛えられましたね。当時のア式蹴球部の部長である堀江忠男先生からは、決して勉強はおろそかにせず、同時に関東大学リーグでの優勝を目指すという指導を受けていましたから。プレーヤーとしてだけでなく、一人の人間としても磨かれたように思います。今は指導者となりましたが、早稲田大学で学んだことの多くが活かされています。早稲田があつて今の自分があるといつても過言ではありません。

久保 私も早稲田という環境だから実現できたことが多いように思います。中学・高校と陸上部で走り幅跳びに打ち込ん

時代を超えて息づく、

それぞれの早稲田魂。



●SIFE World Cup2011(クアラ Lumpur)

価値観を広げてこられたように思います。

受け継がれる早稲田魂

関塚 卒業後に日本サッカーリーグでのプレーを経て、再び指導者として、ア式蹴球部に招いていただいたのは31歳の時でした。いま振り返ると、そんな若者によく名門の監督を任せてくれたと思います(笑)。

久保 どんな気持ちで後輩である選手たちに接していたんですか？

関塚 早稲田での学生生活は本当に充実したものでしたから、



常に感謝の気持ちを胸に抱いて指導にあたりました。自分が日本サッカーリーグで得た技術や理論を伝える一方で、かつて学んだ文武両道の大切さを伝えることにも力を注ぎました。レギュラーであつても控えであつても、高い目標へ向かつてチームで努力することが重要。それが後の実社会でも必ず糧になるんだというメッセージを選手に送ったんです。

久保 私も先輩から学ぶことはたくさんあります。就職活動中にOB・OG訪問をさせていただきましたが、皆さん親身に耳を傾けてくださって。アドバ

イスや激励はとても心強いものでした。後輩や母校への思いが強いのも、早稲田の魅力だと感じます。

久保 私も先輩から学ぶことはたくさんあります。就職活動中にOB・OG訪問をさせていただきましたが、皆さん親身に耳を傾けてくださって。アドバ

イスや激励はとても心強いものでした。後輩や母校への思いが強いのも、早稲田の魅力だと感じます。

でした。後輩や母校への思いが強いのも、早稲田の魅力だと感じます。

でいたのですが、大学に進んだら新しく何か面白いことをしたいと考えていました。グローバルに門戸を開く早稲田なら、きつといろいろな価値観をもった人たちと巡り会えて、刺激を受けられるだろうと思ひ、志望したんです。

関塚 実際に進学してみてどうでしたか。

久保 まさにイメージ通りでした。多様な仲間がいて、その分、多様な価値観が醸成されていて。彼らの考え方や行動力には、いつも刺激を受けています。

関塚 それは本当に良かったですね。私にとつても早稲田大学で切磋琢磨した仲間や先輩、恩師はかけがえのない存在です。

久保 早稲田の良いところは自身を成長させながら、進みたい道へと後押ししてくれる人材や環境にあるような気がします。OBやOGの方々の話を伺っていても、それは今も昔も一貫して変わらぬ、早稲田らしさなのだと感じます。

関塚 隆

- 1960年 生まれ
- 1984年 早稲田大学教育学部 卒業
- 1984年 本田技研工業 入社
- 1984年 (JSL1部)得点ランキング2位 新人王、ベストレアン
- 1991年 早稲田大学(ア式蹴球部) 監督(大学選手権優勝)
- 1993年 (Jリーグ発足)鹿島アントラーズ コーチ
- 2004年 (J2)川崎フロンターレ 監督(就任1年で翌年J1昇格)
- 2010年 男子サッカー日本代表 U-21監督
- 2012年 ロンドンオリンピック 男子サッカー日本代表 監督(ベスト4入り)
- 2013年 (J1)ジュビロ磐田 監督



久保 唯香

文化構想学部4年
Enactus(前SIFE) WASEDA 2012代表

- 「SIFE(次世代のビジネスリーダー育成を目指す国際的NPO)JAPAN国内大会2011」「同大会2012」優勝
- 日本代表として世界大会出場
- 2012 Dell Social Innovation Challenge ベスト5
- 2011・2012年度早稲田学生文化賞受賞

早稲田だからこそ開かれた道

久保 私の取り組むEnactusの活動は、大学生のアントレプレナーシップ(起業家精神)やリーダーシップを育成することを目的としたプログラムで、現在は世界40カ国ほどに広がっています。私はe-Educationという映像授業を展開するプロジェクトに参加して、Enactusの大会にプレゼンターとして出場しました。これはバングラディッシュやルワンダなど途上国の農村部で、教育を受けられない環境にある高校生に、映像授業を提供して大学進学を目指してもらうという試みです。

関塚 バングラディッシュですか！ 私は初の海外がバングラディッシュだったんですよ。高校生の頃にサッカーの試合があつて行つたんですが、当時はホテルも競技場も整備がされていなくて、とにかく大変でした。都市部で



そうだったんですから、農村部ならなおのことだと思ひます。あの環境で映像教育活動を行ってきたなんて、すごいことですね。

久保 きっかけはやはり早稲田にあつたんですよ。WAVOC(早稲田大学平山郁夫記念ボランティアセンター)所属の日本ルワンダ学生会議という学生団体に出会つたことで、国際協力活動に関心を寄せるようになったのが始まりでした。

関塚 バイタリティがあつて、好奇心も旺盛なんですね。若い人にとつて大事なことですよ。それが前向きなチャレンジ精神へと発展してゆきますからね。

久保 まだまだだなと感じることも多いんですが、バイタリティと好奇心があつたからこそ、これまでにいろいろな人と出会えて

もつといろいろな後輩から刺激を受けたんです。

久保 はい、ぜひ！ 早稲田大学には自分の信念をもつて、さまざまな分野で地道に頑張つて成果を残している学生がたくさんいます。ぜひ先輩の皆さんには、そんな後輩の姿を見ていただきたいです。そういう地道な努力の積み重ねが、エネルギーな早稲田魂を作り出しているのだと思います。

関塚 こうして後輩とじっくり話し合つて、その頼もしい活躍ぶりを知ることができるとは先輩として嬉しいことです。今後とも応援したくなります。自分の母校から熱い早稲田魂をもつた後輩が誕生するのを、これからも見守り続けたいと思います。期待していますよ！

文化構想学部4年
Enactus(前SIFE) WASEDA 2012代表

- 「SIFE(次世代のビジネスリーダー育成を目指す国際的NPO)JAPAN国内大会2011」「同大会2012」優勝
- 日本代表として世界大会出場
- 2012 Dell Social Innovation Challenge ベスト5
- 2011・2012年度早稲田学生文化賞受賞

※この対談は(J1)ジュビロ磐田の監督就任が発表される以前の、5月14日に行われたものです。

